

# 七条中学校だより夏休み7号

京都市立七条中学校

令和8年8月21日

発行: 校長 林 秀雄

## 昭和 100 年から未来を考える

令和8年(2026年)は、昭和元年(1926年)から数えて満100年(数えでは101年・昭和は1926年12月25日に始まり、1989年1月7日まで)の節目の年にあたります。「昭和100年」と聞いても、生徒の皆さんにとっては遠い昔の出来事のように感じるかもしれません。しかし、今私たちが暮らしている社会や学校、家庭の姿は、昭和を生きた人々の努力や挑戦の積み重ねの上に成り立っています。

昭和という時代は、決して平坦な道のりではありませんでした。戦争によって多くの尊い命が失われ、人々は苦しい生活を余儀なくされました。しかし、戦後、人々は力を合わせて復興を成し遂げ、日本は大きな発展を遂げました。新幹線の開通や東京オリンピックの開催、高度経済成長による社会の発展など、昭和はまさに激動と変革の時代でした。一方で、昭和の時代を振り返ると、「物が豊かになること」だけではなく、「家族や地域とのつながり」「人と人との支え合い」「困難に立ち向かう強さ」といった大切な価値観も見えてきます。私たちが今日、平和な社会の中で学び、夢や目標を語ることができるのも、先人たちが苦難を乗り越え、未来に希望を託してくれたからです。

皆さんが生きる2050年頃の社会は、どのようなになっているのでしょうか。AI(人工知能)やロボット、宇宙開発、再生可能エネルギーなどの技術はさらに進歩し、私たちの暮らしは大きく変わっているかもしれません。今、スマートフォンが当たり前になったように、今は想像もできない新しい技術や仕事生まれているでしょう。しかし、どれほど時代が変わっても、人を思いやる心や平和を願う気持ち、自分や社会をより良くしようと挑戦する姿勢は変わりません。未来は誰かがつくるものではなく、皆さん一人ひとりがつくっていくものです。

昭和100年という節目を機会に、過去を知ることを通して、「これからどんな社会をつくりたいのか」「自分はその未来のために何ができるのか」を考えてみてください。

歴史を学ぶことは、過去を知るだけではありません。先人たちの歩みから学び、未来へのヒントを見つけることです。皆さんが希望あふれる未来を思い描き、その実現に向けて一歩を踏み出してくれることを願っています。

## 東野圭吾さんの作品に触れてみませんか

この夏、日本を代表する小説家である東野圭吾さんが亡くなりました。68歳でした。『容疑者Xの献身』『白夜行』『ナミヤ雑貨店の奇蹟』、そして福山雅治さん主演のドラマや映画で親しまれた「ガリレオ」シリーズなど、数多くの名作を世に送り出し、多くの人々に感動と驚きを与えました。

東野圭吾さんの小説の魅力は、「続きが気になって読み進めたいくなること」です。難しい文学作品というよりも、まるで映画やドラマを見ているような感覚で楽しむことができます。謎解きの面白さだけでなく、人の優しさや家族の絆、人が生きるものの意味などが描かれており、読み終えた後には心に残るものがあります。

東野さんの作品を読んだことがない人には、まず『ナミヤ雑貨店の奇蹟』をおすすめします。悩みを抱えた人たちの手紙に答える不思議な雑貨店を舞台にした物語で、「人のために行動することの大切さ」を考えさせられます。読書が苦手な人でも比較的読みやすい作品です。

ミステリーが好きな人には、『容疑者Xの献身』がおすすめです。天才数学者と天才物理学者が繰り広げる頭脳戦は圧巻で、「そういうことだったのか!」と驚く結末が待っています。

また、ドラマで有名な「ガリレオ」シリーズは、科学の知識を使って難事件を解決していく物語です。理科や数学が好きな人には特に興味深く読めるでしょう。科学が苦手な人でも、登場人物の魅力やストーリーの面白さに引き込まれるはずですよ。

私は学校で生徒の皆さんに、「自分の世界を広げてほしい」と願っています。本は、自分が体験できない出来事や考え方に会わせてくれる「心の旅」のようなものです。スマートフォンや動画も楽しいものですが、一冊の本をじっくり読む時間は、想像力や考える力を育ててくれます。

もし今まであまり本を読んだことがない人がいたら、この機会に東野圭吾さんの作品を手にとってみてください。きっと、「本って意外と面白いな」「次も読んでみたいな」と感じる作品に出会えると思います。そして、その一冊が皆さんを読書の世界へと導く、最初の一歩になることを願っています。